

大阪医科大学学報

第79号 平成21年2月
(インターネット版)



竹

◆目

健康科学クリニック	2
規程関係	4
寄付金報告	5
受賞等について	6
学位記授与式	9
中山国際医学医療交流センター	11
医学会秋季学術講演会	14
卒後臨床研修センター	15
学内行事	17
看護専門学校	22

◆次

附属病院関係・感染対策室関係	23
医療安全推進部関係	24
市民公開講座	25
主要会議報告	27
行事日程	29
歴史資料館	30
保健管理室からのお知らせ	31
俳句	33
OMC限定キュービー	34

● 「大阪医科大学 健康科学クリニック」について ●



理事長 國澤 隆雄
学 長 植木 實

この度、JR高槻駅に医療ビルが建築されるに伴い、本学の永年の夢でありました、人間ドックを主体とする「健康科学クリニック」を開設しますので、改めてその事業計画の概要について述べます。

大阪医科大学健康科学クリニックは、JR高槻駅北側の2階部分に直結して建設される「JR高槻駅NKビル」にオープンします。この施設の事業内容は、健康維持・促進を目的とした人間ドック部門、即ち健診事業が当初は約9割方を占め、その補完部門として、女性専門外来ならびに一般専門外来を設置します。本施設の開設は2009年（平成21年）6～7月の予定です。

建物の施主はジェイアール西日本不動産開発株式会社で、ビル全体は鉄骨造り6階建、本学がその3～6階部分の総計400坪程度を賃借します。施設の運営は、健康科学クリニックが独自に行いますが、諸検査、最新MRIならびに320列CTを使った高度画像診断、また一層の検索の診療が必要な方については、大学附属病院との連携を図って参ります。

本事業の基本理念は、第一に本学の病院理念を継承しつつ、本学の医療施設として相応しい診療を提供すること、第二に地域住民の健康増進に積極的に本学が寄与すること、そして第三に大学病院の付属施設として医学研究に貢献することにあります。

医学研究については、本建物内に東洋医学、女性全人医療、認知障害、内科難病、メンタルヘルスケアなどの分野において、「未病医学・健康生成」をテーマに寄附講座を設けます。

事業の意義としては、まずは地域の皆様の健康増進に役立つ施設として、また地域の医療機関をサポート・連携できる施設として十分な対応を行い、また検査が終わり、そのフォローが必要な方、あるいは治療方針の立った患者様は、広く地域の医療機関に積極的に紹介します。地域の医院様と本クリニック

及び大学附属病院と連携したネットワークを構築し、この健康科学クリニックの情報が共有できる体制を取ることで、多くの病院・診療関係者の皆様が、この健康科学クリニックへの依頼、あるいは各医院への紹介などの利用がしやすくなり、地域医療の連携を实のあるものにしたと考えています。なお本施設においては、診療情報の紹介や検査依頼の予約を容易に行える環境も整えます。それにより、地域医療施設との連携をより強化し、医師会の皆様方と協調して共存共栄の関係を結びたいと考えています。

お客様として主な対象となる方々は、高槻市や茨木市などを中心とする三島医療圏の住民の方、また大企業や本学と関わり合いのある取引先の社員様などを考えています。

本施設は、5階と6階が「人間ドック」の健診センター・検査センターとなり、主要機器はCT（16列）、マンモグラフィ、電子内視鏡などの充実した装置を揃えて、精度の高い健診結果をお返しします。ドック関係では、一般ドックの他に肺がんドック、レディースドックも行い、一般健診の他に乳がん関係の健診では、マンモグラフィや乳腺エコーも行います。また検査関係では、CTの3次元画像検査や消化器内視鏡検査などを実施します。そして更に必要な検査は、大学附属病院と連携して、全ての面において質の高い、安心な健診、検査システムを提供します。人間ドックの検査は全ての項目を網羅しており、特に呼吸器系検査はCTで行います。それに加えて、腫瘍マーカーも行いますが、全てを受診されたのドック料金はリーズナブルな価格にしたいと考えています。

そして4階は女性専門外来、3階には一般専門外来を設置し、本施設で実施したドックの結果から追加診療の必要な方、あるいはご紹介患者様のための専門外来診療を行います。これらの専門外来では、東洋医学の専門家が診療に積極的に参画します。女性専門外来では、全人的な観点で診察を行い、更年期、不定愁訴、アンチエイジングに関連する診療を実施します。また一般専門外来では、内科難病、認知障害、睡眠障害及び最近特に多いうつ病も含めた心療内科など社会性のある疾患の診療を行います。

そして、人間ドックの結果を受ける際に、同時に未病や有病について相談できるシステムを作り上げることで、本ドックを受診される方に色々な意味での相乗効果をもたらすと思われれます。現在このようなシステムを持つ人間ドックの実施は、まだ全国でも少ないとされ、この健康科学クリニックの重要な事業意義になると考えています。

また本クリニックの人員構成は、クリニック所長1名を含み医師が常勤4名と、主に一般専門外来を担当する非常勤医師、技師は正職員とパート、看護師は常勤と非常勤、他に事務長と人間ドックの営業を行う外交員を置き、保健師、情報管理部員などを配置する予定です。

現在、企業を中心に人間ドックの広報及び営業活動を始めており、各企業や団体の健康保険組合との契約の締結に注力しています。

この健康科学クリニックは、今までにない社会性のある健診・診療施設として注目されるように企画し、特に近隣の開業の先生方の診療を妨げることなく、むしろ連携室の強化により、ドック後に治療・フォローの必要がある方の紹介を行い、共存共栄を図りたいと考えています。また医師会から要望の強い特定健診後の保健指導に積極的に参加することで、皆様に喜ばれるクリニックにしたいと思ひます。

今後共皆様方の温かいご支援とご協力を是非よろしくお願ひします。

健康科学クリニックのホームページ：<http://www.omchsc.jp/>

規程関係

規程制定

次の規程が制定されました

- 学校法人大阪医科大学 謝金等の支払いに関する規程 (平成20年9月1日制定)
- 学校法人大阪医科大学 監事監査規程 (平成20年11月11日制定)
- 大阪医科大学 特定医療従事条件付奨学金規程 (平成21年1月1日制定)
- 大阪医科大学 特定医療従事条件付奨学生選考・管理委員会規程 (平成21年1月1日制定)
- 大阪医科大学 入学時特待生規程 (平成21年4月1日制定)
- 附属看護専門学校 学生簿等の管理に関する規程 (平成20年11月1日制定)
- 附属看護専門学校 証明書発行事務に関する取扱要領 (平成21年4月1日制定)

規程改正

次の規程が改正されました

- 大阪医科大学 奨学金貸与規程 (平成20年11月5日改正)
- 大阪医科大学 教員採用手続に関する内規 (平成20年11月5日改正)
- 大阪医科大学 公的研究費管理規程 (平成20年11月5日改正)
- 学校法人大阪医科大学 事務組織並びに事務分掌規程 (平成20年11月11日改正)
- 大阪医科大学 学長予定者選考規程 (平成20年12月17日改正)
- 大阪医科大学 学長予定者選考規程施行細則 (平成20年12月17日改正)
- 大阪医科大学 入試実務委員会規程 (平成21年1月7日改正)
- 大阪医科大学 給付奨学金支給規程 (平成21年4月1日改正)
- 大阪医科大学 研究生に関する内規 (平成21年4月1日改正)

※上記各規程については、Online規程集（学内限定）にてご確認下さい。

なお、都合上Online規程集の更新が遅れる場合がありますのでご了承下さい。



訃報

本学名誉教授（化学）の塚本 務先生（87歳）が、去る平成20年11月12日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年10月4日から平成21年1月6日までの間の寄付金入金件数は、26件、金額は12,835,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成21年1月6日までの寄付金入金件数は290件、金額は110,940,000円です。

(順不同・敬称略)

アルフレッサ株式会社 株式会社エスアールエル 有限会社植幸田中造園 医療法人畑田医院

医療法人社団宮地外科医院 仁泉会堺支部

谷村 和治 福田 善彰 大槻 哲彦 大森 敦子 階堂嘉壽雄 児島 隆介 土屋 大七

加藤 鈴幸 堀 定信 加野 敏 植村 梨加 野々口直秀 佐々木鷹夫 柴田 真一

安田 啓三 森本 純司 山本かほる 操 信

匿名2件

■ 大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

<入会者>

平成20年10月4日から平成21年1月6日までの間の入会者数は、3名です。
ここに入会していただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成21年1月6日までの寄付金入金件数は242件、金額は5,616,000円です。

(順不同・敬称略)

小林 洋樹 高井 七重 植木 健

※フレンズ会ご入会についてのお問い合わせ

募金推進本部 072-683-1221 (内線2827) または 072-684-7243 (ダイヤルイン)

■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年10月4日から平成21年1月6日までの間の寄付金入金件数は、2件、金額は600,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成21年1月6日までの寄付金入金件数は16件、金額は6,000,000円です。

(順不同・敬称略)

後山 尚久 谷村 和治

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年7月12日から平成21年1月6日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は5,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成21年1月6日までの間の寄付金入金件数は4件、金額は127,000円です。

(順不同・敬称略)

小林 洋樹

■ 寄付講座（未病科学・健康生成研究）設置に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成20年7月8日から平成21年1月6日までの間の寄付金入金件数は、4件、金額は12,100,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
(順不同・敬称略)

浅海電気株式会社 株式会社銭高組大阪支社 西中 弘

匿名1件

受賞等について

受賞等について

Marquis Who's Who in the Worldに掲載
解剖学教室 准教授 柴田 雅朗 先生

解剖学教室の柴田雅朗准教授が、米国NIH Research Excellence 1998の受賞とEMBO J (Vol.18, 2692-2701, 1999) に掲載された論文が高く評価され、それに続く業績が国際的に認められ、Marquis Who's Who in the World (26th Edition, 2009) の Medicine and Healthcareに掲載されました。



柴田准教授(左)と大槻教授

Travel Awards of the ESC Council on Basic Cardiovascular Science

内科学 I 教室 循環器 柚木 孝仁 先生 (大学院生)

2008年8月 ドイツ ミュンヘンで開催されました European Society of Cardiology Congress 2008 (ヨーロッパ心臓病学会)にて、Travel Awards of the ESC Council on Basic Cardiovascular Scienceと賞金€ 500を受賞されました。

演題：『Combination of eicosapentaenoic acid and statin are of most potent effect for plaque stabilization in rabbit plaque model』



指導医の星賀正明講師(左)とポスター前にて

Fairchild Award

脳神経外科学教室 宮田 至朗 先生 (大学院生)

2008年11月2日～7日 イタリア フィレンツェで開催されました 13th International Congress on Neutron Capture Therapy (会長：Prof.Aris Zonta (University of Pavia, Italy))にて、Fairchild Awardと賞金€ 700 (travel fundとして) 受賞されました。

演題：『Biodistribution and Imaging studies on F98 rat glioma by convection enhanced delivery of transferrin targeting PEG liposomes encapsulate both BSH and iodine contrast agent 』



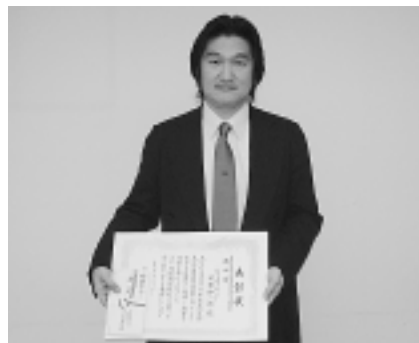
指導医の宮武伸一准教授(左側)と川端信司助教(右側)と受賞会場にて

平成20年度 大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰（藤田賞）の表彰

藤田賞の授賞が、化学療法センター 川部伸一郎 助教に決定し、その授賞式が平成21年2月3日（火）の診療科長会で行われました。

科長会にご出席の方々からの祝福の中、川部先生に表彰状と金一封が授与されました。

平成21年度の顕彰については、本年の秋頃に募集を予定しております。



看護についての体験記 佳作入賞

産経新聞社主催の『ラブリーナース・キャンペーン』の一環として公募のありました体験記「看護の仕事と生きがい」で、本学附属病院・有菌麻衣子看護師が佳作に選ばれましたのでここにご紹介致します。（平成20年11月29日付産経新聞に掲載）

看護の仕事と生きがい
～ありがとう～



大阪医科大学附属病院 有菌 麻衣子

鹿児島から大阪に上京して1年5ヶ月。
当時の担当患者U氏は、鹿児島出身の方でした。
懐かしい鹿児島弁で、いつも鹿児島にいた頃の話をしてくれました。
間質性肺炎にて手術をした患者は既往にネフローゼ症候群があり、術後、出血量も多く、腎機能も悪い状態でした。
徐々に肺にも水が溜まっていき呼吸状態悪化。

私：「Uさん、おはようございます。」

U氏：「おはよう。（ハーハー）もうすぐで夏休みなんじゃない？鹿児島に帰るの？（ハーハー）」

しんどいながらも、いつも笑顔で接してくれました。それしてよく、鹿児島の話をしてくれました。

数日後、呼吸状態が更に悪化。Spo2 70～80%台。呼吸及び全身管理目的でICUへ入室。

私は時々ICUに面会に行きました。

気管切開下、人工呼吸器を装着されたU氏は全身浮腫により、日に日に体形が変わっていきました。変わり果てた姿を見るだけで涙がこぼれ出ました。

私：「Uさん、病棟看護師の有菌ですよ。わかりますかあ？」



受賞等について

U氏：うなずかれる。

鎮静をかけられている中でも、声に反応してくれました。U氏の目にも涙があふれていました。

更に数日後。終末期であり、最後は家族と過ごせるようにと、病棟に帰室する日がきました。

その日、私は夜勤明けで、鹿児島に帰る日でもあり、夜勤が終わってすぐ、私はICUに向かいました。そして涙がこぼれました。

私：「Uさん、おはようございます。今日は病棟に戻れますね。よかったね。私は今日から5日間鹿児島に帰ってきますね。桜島の写真撮ってきますね。」

U氏：嬉しそうに笑っている。

ICU看護師：「Uさんが笑ったの初めて見ました。」

夏休み中、同僚からメールが入る。

『Uさん、すごい頑張ってるよ。有蘭さんを待ってるみたい。』

夏休み最終日。

私は桜島の写真を撮りました。U氏に見せるために。

大阪に戻ってからすぐ現像に出し、写真を封筒に入れました。

翌日、速くU氏に見せてあげようと思い、いつもより早く家を出ました。私が病棟に着いて、U氏の部屋に行こうとしたとき先輩に声を掛けられました。

先輩：「有蘭さん、Uさん昨日亡くなってん。有蘭さんのこと待ったんやけどね。すごい頑張ってたんやけどね。奥さんもずっと付き添ってたんやけど、看てるのも辛かったやろうね。『もう頑張らなくていいんよ。』って奥さんに言われてすぐやったよ。」

私は涙が止まらなかった。

拭いても拭いてもだめでした。

最後まで何もできなかった。最後まで看取れなかった。桜島も見せてあげられなかった。

悔しかった。

数ヶ月後、私は奥さんに手紙を書きました。写真も同封して。

数日後返事が届きました。

(Uさんが) “こんなに早く亡くなってしまうなんて夢にも思っておらず、亡き後は落ち込む日々が続いていました。”と。

私の手紙を読んで、Uさんの入院中のこともわかり、“救われた気持ちで元気をもらいました。写真の日付が主人のなくなった日でびっくりしました。主人にも報告して、写真を額に入れて仏壇の前に飾っています。ありがとう。”と。

私も救われた気持ちでいっぱいになりました。

今年も私も3年目になりました。振り返ってみると、患者様だけでなく家族を含めた看護がいかに大切かを実感しました。

私はそんな仕事が大好きです。

平成20年度 第Ⅱ回 学位記授与式

日 時： 平成20年11月28日（金）午後3時～
 場 所： 別館1階 講堂（階段教室）
 大学院医学研究科修了者（甲）…7名
 論文提出者（乙）……………6名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第814号	佐久間 航	モルモット卵管采における卵管上皮線毛運動周波数の測定 (Measurement of ciliary beat frequency in Fallopian tube epithelium of guinea pig)
甲第815号	竹田 清子	Experimental Autoimmune Uveoretinitis Initiated by Non-phagocytic Destruction of Inner Segments of Photoreceptor Cells by Mac-1 ⁺ Mononuclear Cells (Mac-1陽性単核細胞による視細胞内節の非貪食的破壊により発症する実験的自己免疫性ぶどう膜炎)
甲第816号	田中 覚	Proteomic analysis of the basic proteins in 5-fluorouracil resistance of human colon cancer cell line using the radical-free and highly reducing method of two-dimensional polyacrylamide gel electrophoresis (RFHR二次元電気泳動法を用いた、大腸癌細胞株における5-FU耐性に関連する塩基性蛋白のプロテオーム解析)

学位記授与式

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第817号	徳原 孝哉	Evaluation of Lymph Node Metastases in Gastric Cancer using Magnetic Resonance Imaging with an Ultrasmall Superparamagnetic Iron Oxide (USPIO) -Diagnostic performance on post-contrast images using new diagnostic criteria- (MRI造影剤USPIO(超常磁性体酸化鉄)を用いた胃癌のリンパ節転移診断—新診断基準を造影後画像に用いての評価—)
甲第818号	宮下 実	Evaluation of fluoride-labeled boronophenylalanine-PET imaging for the study of radiation effects in patients with glioblastomas (Fluoride-labeled boronophenylalanineを用いたPETによる神経膠芽腫に対する放射線治療の影響の検討)
甲第819号	森島 祥子	Raloxifene, a selective estrogen receptor modulator, induces mitochondria-mediated apoptosis in human endometrial carcinoma cells (選択的エストロゲン受容体調節薬であるラロキシフェンのヒト子宮内膜癌に対するミトコンドリア経路を介したアポトーシス誘導能)
甲第820号	山岡 繁夫	Severe Vitamin E deficiency exacerbates acute hyperoxic lung injury associated with increased oxidative stress and inflammation (重度のビタミンE欠乏は高濃度酸素負荷時の急性肺傷害を悪化させるとともに肺における酸化ストレス及び炎症を増強する)
乙第1062号	黒田 雄三	トランスフェリン標的リポソームを用いたラットC6グリオーマに対する細胞選択的ホウ素集積に関する実験的検討 (Usefulness of liposome-targeting transferrin as a boron delivery agent in boron neutron capture therapy for C6 glioma)
乙第1063号	土居 芳充	Orphan nuclear receptor NR4A2 expressed in T cells from multiple sclerosis mediates production of inflammatory cytokines (多発性硬化症のT細胞におけるオーファン核内受容体NR4A2は炎症性サイトカインの産生に関与している)
乙第1064号	宮本 良平	Edaravone prevents kainic acid-induced neuronal death (エダラボンはカイニン酸による神経細胞死を抑制する)
乙第1065号	三好 拓児	Cloning and characterization of a human BCR/ABL-positive cell line, K562/RR, resistant to the farnesyltransferase inhibition by tipifarnib (tipifarnib耐性細胞株K562/RRの樹立とその解析)
乙第1066号	田伏 洋子	Detection of citrullinated proteins in synovial fluids derived from patients with rheumatoid arthritis by proteomics-based analysis (プロテオミクス手法を用いた関節リウマチ患者関節液中のシトルリン化タンパクの検出)
乙第1067号	西原 賢太郎	Differential brain cooling induced by transarterial perfusion of cooled crystalloid solution in canines (犬モデルにおける、冷却リンゲル液を用いた経動脈的選択的脳冷却法の検討)

■ハルピン医科大学第一附属臨床医学院医師団の本学訪問について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成20年11月25日、日中医学交流センターの依頼により、中国ハルピン医科大学第一附属臨床医学院の王永晨副院長（皮膚科教授）、陳力副院長（口腔科教授）、劉曉民呼吸器内科教授、代文杰肝胆外科教授ら9名の医師団が本学を訪問されました。同大学からの本学訪問は今回初めてでしたが、センター運営委員の黒岩教授が客員教授をされていることもあり、本学とも繋がりのある大学の一つです。

これまでの研修と同様、花房病院長、島原教授らの案内による新病棟（7号館）、2階外来、中央採血室、救急外来やICUなどの病院および、図書館、講義実習棟などの大学キャンパスの見学を行いました。一行は途中随所で施設の充実ぶりや看護師ら職員の誠意のある対応に感嘆されるとともに、多くの質問をされていました。

今回の研修に際しご協力いただきました教職員各位に改めて感謝申し上げます。



中山センターにて

■ロシアアムール医科アカデミーカンファレンス参加について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一



アムール医科アカデミーカンファレンス参加

平成20年12月15日、交流協定を結んでいますロシアアムール医科アカデミーのカンファレンス（“18th Scientific Student's Conference in Foreign Languages”）に本学よりの参加依頼があり、この夏来訪した学生5名（石川翠さん、伊東優さん、西浩之さん、八重垣貴英さん、横田甚さん）らによるパワーポイントを使った3つのプレゼンを行いました。

今回は事前にDVD録画した映像による参加ではありましたが、衛生学・公衆衛生学の山鳥江美助教によるコメントを加えた“THE DIFFERENCES BETWEEN OSAKA MEDICAL COLLEGE AND AMUR STATE MEDICAL ACADEMY”、“THE INTRODUCTION OF JAPAN, OSAKA, AND O.M.C.”、“JAPANESE BEAUTIFUL MOUNTAIN”といった学生たちのプレゼンは、ロシアと日本、そして両大学の理解を深める貴重な機会となりました。

以下アムール医科アカデミーのボロディン教授よりの感謝の言葉です。

I am happy to inform you that today's conference was very successful. ASMA student saw with great interest the video-film prepared by OMC students. Please, pass our sincere thanks to professor Kono, Dr. Yamadori and all the students who visited us last summer and prepared presentations for this conference. We hope to continue our cooperation.

Yours sincerely,
Eugene Borodin

中山国際医学医療交流センター

■ハワイ大学院外選択臨床実習派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環としてハワイ大学医学部との間で交流協定を締結し、学生、教員の相互研修を積極的に行ってきましたが、今回1月5日から30日までの1ヶ月間、本学学生としては初めて、海外院外選択臨床実習研修生として5年生の橋本忠幸君を派遣いたしました。以下研修報告を紹介いたします。



■ハワイ大学院外選択臨床実習体験記

5年生 橋本 忠幸

このたび2009年1月の1ヶ月間、ハワイ大学の提携病院であるKuakini Medical Center（以下クアキニ）で病院実習をさせていただきましたので、ご報告いたします。

背景として、ハワイ大学は附属病院というものがなく10以上の関連病院からなる研修医プログラムを組んでいます。学生も各ローテーションでそのプログラムの研修医の下に配属されるので、研修医とほぼ同じように様々な病院で病院実習をします。その中のひとつの病院がクアキニです。ベッド数は100床強でICUも10床ほどのハワイでは小～中規模の病院です。



右がDr.Tokeshi

4週間のローテーションですが、初めの1週間はオリエンテーションと基本的なトレーニングを受けます。大学に行き身体所見の取り方のビデオ授業と模擬患者を使つての診察の練習、さらにはカルテの書き方の指導など、実践的なトレーニングが続きます。残りは内科2週間と家庭医科1週間の2つのローテーションが組まれます。

内科のローテーションはチーム医療の一員として配属されます。チームの内訳は指導医として病棟勤務医（指導医はチームに基本的に一人ついていますが、患者それぞれの主治医が指導医にもなります。）、次に2年目もしくは3年目の研修医、そして1年目の研修医（以下インターン。アメリカの内科研修期間は3年間で特に一年目のことをインターンと呼びます）。学生は基本的にインターンと行動します。クアキニの場合、チームは4つで、当直も4日に一度回ってきます。チームで10人ほどの患者を担当し、当直時に新患を受け入れます。驚くべきことに、今年のインターンの15名のうち5名が日本人です。私のチームのインターンも日本人でした。



ICUでの回診

次に1日の流れです。5時：病棟で回診してカルテと治療や検査のオーダーをする→7時：2年目研修医と合流し、オーダーなどのディスカッション→9時：カンファレンスルームでレクチャー→10時：指導医とさらに治療方針についてのディスカッション→12時：ICU回診→午前中にできなかった残りの業務→4時：帰宅

学生もほぼこれに準じます。私の場合、患者を2、3人担当させていただき、その患者のカルテとオーダーを「考える」ことをしました。私はオブザーバーという形なので、実際にカルテは書けません。かわりにシャドーチャートという名の

紙を渡され、それに「考えた」カルテとオーダーを書き、研修医に見てもらい、上手くいけばそのまま採用してもらい、実際のカルテやオーダーシートに書いてもらえます。ここで様々なディスカッションをするので、非常に勉強になります。レクチャーも様々なものが準備されていて、研修医と学生は全て参加します。月、金はモーニングレポート(症例検討会)。水、木も実症例を使った神経や循環器のレクチャー。さらに、火曜日はアカデミックハーフデイと言って当直以外のチームは業務を昼までに切り上げ、他の病院でローテーション中の研修医たちと一緒に1時から5時まで講義やワークショップ



クアキニ病院

に参加するといった充実っぷりで、研修医には原則「義務」となっています。「義務」ですので、業務をなんとかやりくりしてまで行かなければなりません。日本の感覚からすると驚きです。

次に家庭医科です。日本出身ですが、30年以上こちらで開業されているDr.Tokeshiのもとで実習をします。実はこのローテーションはハワイ大学の学生にも恐れられているもので、「Dr.Tokeshiのローテーション中です」と誰に言っても「Good Luck」と言われます。それはなぜか。寝る時間がないのです。先生が6時半に病院に来て回診されるので、それまでに先生の患者全てをチェックしなければいけないのです。しかも一人当たりの担当患者は10人以上(8割は慢性期ですが)。そのため病院に行くのはほぼ3時。先生はクアキニに隣接されているKuakini Physician's towerという様々な開業医がオフィスを持っているビルの一角にオフィスを持っています。こちらの開業医は自分の患者に入院が必要になれば、病院に「紹介」するのではなく病室を「借りる」ことが多いのです。最近はオフィスを持たないホスピタリストという入院患者のみを診る病棟勤務医が代わりにフォローしていくことも増えてきています。しかし、Dr.Tokeshiはそれをせずに全て一人で忙しい開業医の業務の合間をぬって入院患者のケアに当たり、そのために朝早くから病院にいらっしゃいます。先生との回診が終わったら先生のクリニックで予診や身体所見を取ったり、他にも様々な経験をさせていただきました。先生には医学の知識だけではなく、医師としての心構えや礼儀作法など、様々なことを教えていただきました。ちなみに先生のローテーション中は24時間オンコールでいつでもポケベルで呼び出されます。実は二度ほど私も1時に叩き起こされました。確かに大変なローテーションですが、誰に聞いても「行って良かった」と言います。それくらい充実した1週間でした。

ハワイでの実習は本当に充実したものでした。こちらに実習を申し込むまで様々な問題がありましたが、それらを解決するためにご尽力いただいた、河野教授、大槻教授、米田教授、学務部の有友さん、中山国際医学医療交流センターの今尾さん、実習中にもかかわらず快くハワイでの実習を許可していただいた先生方に心から感謝しています。様々な方に支えられ、この実習を実現することができました。この恩に報いるためにも、こちらで得た経験を本学に還元できるよう努力したいと思います。



チームでのディスカッション



指導医とのディスカッション

医学会秋季学術講演会

平成20年度 医学会秋季学術講演会

日 時：平成20年11月12日（水）13時30分～16時

場 所：臨床第1 講堂



〔鈎奨学基金研究助成受賞講演〕

『病原細菌定着因子及び毒素の菌体内輸送システムに関する顕微科学的解析』

大阪医科大学 微生物学教室

助教 呉 紅 先生

〔特別講演〕

『医学教育の現状と将来』

大阪医科大学 教育機構

専門教授 出口 寛文 先生



〔特別講演〕

『リウマチ性疾患のリハビリテーションの最近の話題』

大阪医科大学 リハビリテーション医学教室

教授 佐浦 隆一 先生



学長室にて
前列左から：
出口教授、植木学長、
佐浦教授
後列左から：
大道教授、林教授、
森田教授

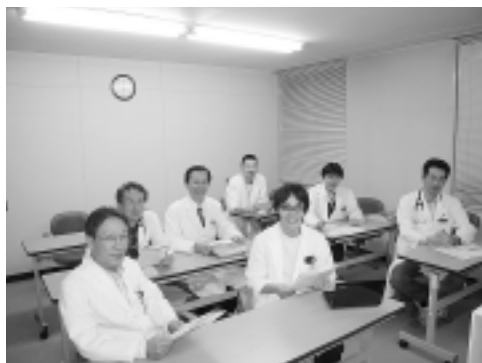
卒後臨床研修センター

医師不足地域での臨床研修を終えて

研修医 坂根 和志

私は2009年1月5日から、兵庫県神崎郡の公立神崎総合病院で約1ヶ月間の地域保健・医療の研修を行いました。兵庫県のほぼ真ん中に位置する医師数18名足らずの病院ですが、神崎郡の住民にとって本当の意味での地域密着型の基幹病院でした。この病院を選んだ理由は、一度は大学病院を離れて研修を行いたかったという単純な動機もさることながら、何よりメディア等で騒がれている地域医療とは一体どういうものかを身をもって体験したかったという気持ちが強かったように思います。

研修初日に内科部長である呉先生と各部署に挨拶まわりをさせていただきましたが、どの部署の方も笑顔で私を歓迎してくださりスムーズに病院に溶け込むことができました。病院では通常業務として、エコー検査（心臓・腹部・頸動脈・乳腺）、内視鏡検査、胃瘻造設、気管支鏡検査、透析、外来（内科・東洋医学・整形外科）、検査室見学、入院・救急患者の対応、当直を行いました。入院患者の平均年齢は80歳を超えており、大学病院では研修する機会の少ない肺炎、尿閉、脱水、腎不全、心不全、脳梗塞、Parkinson病、認知症などなど多くの入院症例を診させていただくことができました。また、救急外来や当直では、インフルエンザや風邪はもちろん、不整脈や心不全、脳梗塞、COPDといった内科的な救急から、骨折、指尖部切断、腓損傷などといった外科的な外傷の処置、CPA症例などの一次救急を含めた様々なcommon diseaseや高齢者特有のハイリスクな患者管理までも経験することができました。



右から3番目（写真中央）が坂根研修医

病院に付随する老健施設、リハビリ施設を始めとした各部署の見学をはじめ病院から山間部に移動した過疎地域にある大畑診療所にも医師・看護師・病院事務方に同行させていただき、そこで患者様から「若い先生が来よっとね」と言って、干し柿とみかんをいただいたことは忘れもしない良い思い出となりました。

地域の特性上高齢の方が多く、交通の便も不自由であり、更に悪天候が重なると都会のように簡単に病院へ行くことができない現状がありました。訪問看護、訪問リハビリ、往診といったコメディカルの方々および近隣の開業医の先生と連携した医療が不可欠であることを実感しました。

休日には患者様や病院スタッフの方々に教えていただいた生野銀山や黒川温泉などといった近隣の名所散策にも出かけることができました。都会では味わうことのできない時間の流れ方、田舎特有の病院スタッフや患者様の優しさ、なんといいても現場に立ってみなくては分からない地域医療の重要性と必要性、何もかもが新鮮で初めてのことばかりであったような気がします。

わずか1ヶ月という短い期間でしたが貴重な経験をさせていただくにあたって様々な配慮をして下さった臨床研修センターの方々、公衆衛生学の先生方、そして何より公立神崎総合病院の病院スタッフ関係者のみなさまの懇切丁寧な指導や温かい心遣いに感謝しています。本当にありがとうございました。いろいろとご迷惑をおかけしたことと存じますが、本当に充実した研修をさせていただきました。この経験を忘れることなく今後活かしていきたいと考えています。

健康フェア —メタボリック対策—

平成20年11月22日（土）午前9時30分から、病院外来棟・7号館1階において「健康フェア」が開催されました。病院長の開会の挨拶に続き、ピエロによるバルーンアートが催され、今年のテーマである「メタボリック対策」として、看護部によるメタボ測定・骨密度測定、栄養部・リハビリ・薬剤部の共同によるメタボ講習会、中央検査部による血管エコー検査などを実施し、約200名の参加者にはスタンプラリー形式にて順次回っていただきました。

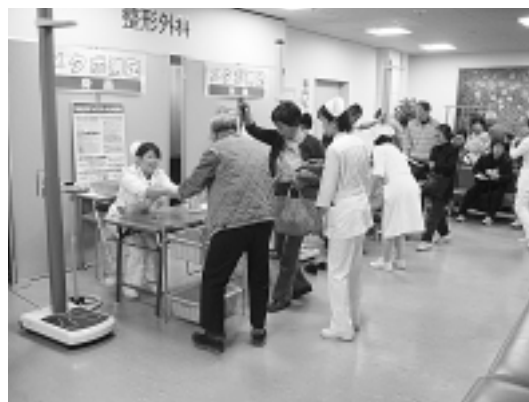
また、救急医療部によるAED講習会や相談コーナー（看護部・薬剤部・栄養部・リハビリ・医療相談部・医事課）も開催され、キッズコーナーでは子供たちが「ストラックアウト」ゲームなどで楽しく過ごし、いつもとちがう病院の雰囲気の中で賑わいを見せていました。

大阪医科大学 健康フェア
メタボリック対策
11/22 9:30~15:00 (受付9:30~14:00まで)
 入場無料・雨天決行 病院外来棟1階・病院7号館1階
 オープニングピエロによるバルーンアート！
 ご来場を心よりお待ちしております。

メタボ測定 メタボリックシンドロームの診断に必要となる血液検査の無料実施を行います。	メタボ講習会 メタボリックシンドロームの診断基準や予防法について、医師から学びます。
血管エコー 100名以上が対象となります。	AED講習会 救急医療部によるAEDの正しい使い方について学びます。
相談コーナー 【栄養・リハビリ・薬剤科】 【看護科】 【医療相談部】	病院ボランティア募集コーナー
人間ドック相談コーナー	軽食コーナー 【100円以内】
	キッズコーナー

スタンプラリー
最高5GET7
 (達成者200名)

OMC 大阪医科大学附属病院
 〒565-0801 大阪府東淀川区西淀川7番7号
 予約：0320-6020・1222(11代表)



■ピエロが病棟にやってきた！

65病棟 古場 真臣

平成20年11月22日、病院フェアにてピエロが65病棟にやってきました。初めて名前を聞いた子もいるようで、その目で見ると全くイメージがつかなかったのではないのでしょうか？僕自身も実際にピエロを見るのは初めてでした。

いよいよ病棟にピエロがきました。小さい子にとっては陽気なピエロもその様相から恐怖の対象であったのか一定の距離を保ったままそれ以上近付かず…中には逃げ出しそうな子もいたりして…それでも気にはなるのか看護師に付き添われながらも遠目から見てくれていました。

陽気な音楽がなり出すと共に、ピエロは楽しい話し方とバルーンアートで少しずつ子どもたちとの距離を縮めていくことができたようで、最初は恐る恐るだった子どもたちも次第に積極的になれると共に笑顔が増えていってました。

僕は、徐々に楽しくなっていく子どもたちを見ていたら突然ピエロから指名され、三つ編みを顔に押し付けられ、頬にピンク色のハート形のシールを貼られ、踊りを踊らされ、とまさかの参加となりました。でも子どもたちに喜んでもらったのでよかったと思います。

最初こそはその異様な姿にちょっと怖い感じがあった子どもたちですが、さまざまな出し物を目にした後、ピエロが帰ろうとした時はすごい光景を目にすることになりました。子どもたちにとって最初はちょっと怖い感じがあったピエロでしたが、最後はピエロが帰れない程に周りを子どもたちが取り囲み、陽気なピエロもちょっと困る程に人気を集めていました。

入院生活をしている子どもたちにとって、今日のこの体験はとても貴重だったのではないのでしょうか。『クリニックラウン（臨床道化師）』この言葉をどれくらいの人が聞いたことがあるのでしょうか？

病院を意味する「クリニック」と道化師をさす「クラウン」を合わせた造語であるようです。クリニックラウンは、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、子どもたちの笑顔を育む道化師のことです。クリニックラウンは、優れた表現者であるとともに、子どもとの接し方、子どもの心理、保健衛生や病院規則にも精通したスペシャリストであり、道化師の芸を披露するためのものではなく、子どもたちの心に寄りそうためのものであるそうです。病気の治療のために様々な制限の中で入院生活をしている子どもたちが思いっきり笑い、主体的に遊ぶことの出来る環境をつくること、それがクリニックラウンの役割とされているようです。

僕も昔テレビでその名前を耳にしたことがあったのですが、病院の中でピエロが活躍するイメージは出来ていなかったです。今回クリニックラウンではなかったにしろ、入院生活をしている子どもたちが思いっきり笑っている姿を見ることができました。ピエロが病棟に来て、子どもたちのたくさんの笑顔を作ってくれたからだと思います。

こどもの笑顔は子どもらしさであり、その笑顔を見るために僕は子どもたちに毎日関わっています。そして子どもの周りの人達も、笑顔を見るために手を触れたり顔に触れたりして笑いを引き出したいと思っています。大人でも子どもでも笑顔でいられるということは、元気の証であり活力につながるのだと思うことができました。そして笑顔の大切さを、改めて学ぶことが出来ました。

貴重な体験と共に、今回このような機会を与えて下さったことに感謝しています。



65病棟を慰問するピエロと子どもたち

近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラムの説明会並びに特別記念講演会の開催



聖路加国際病院長 福井次矢先生

平成20年11月7日(金)午後5時から臨床第一講堂におきまして、近藤キャリア形成支援センター長より、キャリア形成支援センター設立の経緯や近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラムについての説明並びに聖路加国際病院長福井次矢先生の特別記念講演会が行われました。

連携する大学の関係者や、学内からは植木学長、花房病院長、米田卒後臨床研修センター長をはじめ医師、看護師、コメディカル等200名余りの方々にご出席をいただき、予定した2時間を超過する活発な質疑応答が行われ、出席者の皆様方の医師養成に対する関心の深さを痛感しました。

説明会ではプログラムに基づき近隣の医科大学や地域医療機関と連携することにより、医師のキャリア

形成支援を中心とした当面の支援内容の説明や将来構想として、女性医師、看護師、コメディカルの生涯教育・キャリア形成に対する考えも示され、最後にこのプロジェクトの主旨をご理解いただき、多くの先生方に登録していただくようお願い致しました。(プログラム詳細等はホームページ<http://kinkijunkan.jp>をご覧ください。)

また、特別記念講演では卒前・卒後臨床教育の第一人者としてご高名な福井次矢先生から『医師養成をめぐる最近の動向』についてお話をいただき、今後の取り組みに大変に参考になることが多くありました。(収録DVDを貸出しています。申込先はキャリア形成支援センター(内線:3293)まで。)

平成20年度 大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告



平成20年11月20日(木) 15:00~16:30
 ホテルグランヴィア大阪 20階「名庭」の間
 『医師への法的責任追求に対する初動対応』
 - 刑事・民事を中心として -
 井上法律事務所
 所長 井上 清成 先生



今回の特別講演は井上法律事務所の井上清成先生をお招きして標題の講演を行って頂きました。連携病院より74名、院内より38名、合計112名の先生方にご参加頂き開催いたしました。

演者の井上先生は1981年に東京大学法学部を卒業され、同年に弁護士登録をされておられます。医療者側に立った弁護活動をされておられる数少ない弁護士のお一人であり、医療法務弁護士グループ代表も務められています。その他にも、「日本醫事新報」「MMJ」等々にて活発な執

筆活動も続けられております。参加された先生方にとって非常に関心の高い「医療訴訟」の実情や対応方法について、身振り手振りを交えて分かりやすい講演となりました。講演会後の懇親会の中でも先生に対する質問が飛び交い、素晴らしい講演会であったという意見・感想が多く聞かれました。

NICU・ベビールーム消防避難訓練実施



平成20年11月5日(水)午後1時からNICU・ベビールームにて消防避難訓練が行われました。深夜にミルクウォーマーから出火した想定でNICU児6名、入院児10名、保育児10名、分娩中産婦1名の避難を実施しました。ベビールームの人形を使って、全員真剣に取り組み、火災の際の対応を学びました。

院内コンサート開催



平成20年11月8日(土)午後2時から病院外来棟1階フロアにて院内コンサートが開催されました。本学学生のグリークラブの合唱や室内管弦楽部の演奏に続き、本学OBで結成された混声合唱、花房病院長によるヴァイオリン演奏など約90分のコンサートに入院患者様やそのご家族など約400名の来場があり2階まで溢れる盛況となりました。最後に「ふるさと」を会場の全員で合唱し楽しいひとときを過ごしました。

平成20年度 実験動物慰霊祭



日 時 平成20年12月6日(土)13:00～
場 所 大阪医科大学 講義実習棟 第1講義室

実験動物センター長・林教授の祭文奉読に続き、医学医療に貢献した数多くの実験動物の御霊に謝意を表し、植木学長をはじめ、参列者全員が焼香を行ないました。

阪神タイガース 岩田稔投手が小児病棟を慰問



平成20年12月7日(日)に阪神タイガースの岩田稔投手が入院中の子どもたちを激励するために65病棟を慰問に訪れました。一緒にゲームをしたり、子どもたちは岩田投手と親しく交流し、サインなどをいただきました。その後、花房病院長から岩田稔投手に感謝状が贈られました。

岩田 稔 (1983年10月31日生) 大阪府出身。大阪桐蔭高校2年生の冬に、1型糖尿病を発症。関西大学から、2005年の大学・社会人ドラフトの希望入団枠で阪神に入団。今でも1日4度のインシュリン注射は欠かせない。

第2研究館2階 (SPF室) 内覧会



平成20年12月、実験動物センターの設備の拡張・充実を目的とした改装工事が終了し、12月11日(木)12日(金)の両日、午後2時から4時まで内覧会が開催されました。改装後の第2研究館2階 (SPF室) は、平成21年1月下旬より稼動しております。

平成21年 年賀交歓会



日 時 平成21年1月5日(月)13:00～
場 所 大阪医科大学 大学管理棟 第9会議室

理事長、学長、病院長出席のもと、元学長、名誉教授にもご出席賜り、100余名の教職員の参加とともに、恒例の年賀交換会が開催されました。



講演会『情報と命』



診療情報管理室による近畿病歴セミナー主催の教育講演会が下記の通り開催され、出席者からは大変良い講演であったとの感想を頂きました。

日 時：平成21年1月24日(土) 午後2時～

場 所：臨床第一講堂

講 師：読売テレビ放送報道局次長

読売TVウェークアッププラス解説者

岩田 公雄 氏

座 長：大阪南脳神経外科病院副院長

河合 省三 先生



クリスマスコンサート

平成20年12月19日(金)17:30～18:30

学生自治会主催の、地域との積極的関わりと学生のボランティア精神を高める目的ではじめられた看護学校学生・教職員全員参加でのクリスマスコンサートも今年で第3回を迎えました。コンサートに伴って11月末日には玄関ホールに高さ3mのクリスマスツリーを飾りつけたり、北側の吹き抜けガラスにも可愛い飾りをつけ、エントランスホールにはイルミネーションを飾り点灯式を行ないました。BGMにはクリスマスミュージックを流し、看護学校はクリスマス一色となりました。本番に向けて吹奏楽部やクラスごとの合唱、学生有志によるダンスなど、忙しい学習の合間に熱のこもった練習を重ね、当日を迎えました。

昨年同様に、地域の方々80余名の大人の方々と多くのお子さん達にご参加いただき、ホールは熱気でいっぱいになりました。学生手作りの心ばかりの小さなプレゼントを手渡し、ラストにはお子さんたちにステージに上がってもらって“アンパンマンマーチ”を吹奏楽の伴奏で大合唱! 帰り際にはサンタとトナカイに扮した学生の大喜劇に、小さなお子さんたちからの握手と記念撮影となり、楽しい賑やかなひとときを持つことができました。

新校舎が完成して4年目の冬。地域に根ざした看護専門学校になりつつある実感を得ることができました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



■ 「カンタン心肺蘇生法・AED講習会」

救急医学教室 西本 泰久

平成20年の10月初旬に、本院の6号館前の歩道上で、突然70歳代の男性が倒れました。居合わせた患者様と警備の職員が気づき、直ちにCPRコールボタンが押されました。偶然通りかかった看護師がすぐさま胸骨圧迫を開始しました。そこに、CPRコールでかけつけた医師が、設置してあったAEDを使用し電気ショックを行い救命することができました。このように、突然倒れた人に対して素早い通報・心肺蘇生法・AEDの使用は重要であり、居合わせた人との行動が生死を分けることが知られています。

大阪医科大学でも多くの職員の皆様に心肺蘇生法とAEDについて知っていただき、実施できるようになっていただくため、平成20年11月21日（金）と12月17日（水）に「カンタン救急蘇生法・AED講習会」と題して、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施しました。対象は、大阪医科大学および大阪医科大学附属病院で働く方々でした。契約職員なども含めての参加で合計193名の方々に受講していただきました。ご参加いただいた皆様は大変熱心に実習をされ、心肺蘇生法の重要性を理解していただくことができました。これからもこのような企画を続けていきたいと考えています。



臨床講堂での講習の様子

■ 感染対策室からのお知らせ

狼は来るのか？ 新型インフルエンザへ向けての準備

新型インフルエンザ・パンデミック（pandemic／感染爆発）の話題がマスコミを賑わせています。「狼が明日、来る」とは誰も言っていない、「来るかもしれない」ので、「いつ来たとしても対応できるよう最低限の準備をしておけ」というのが専門家の言葉です。昨年末、国内で新型インフルエンザの第一例目の患者が発生した場合、都道府県単位で小、中学校の休校を発令されることが決まりました。ほとんどの国民が新型インフルエンザウイルスに対して免疫がなく、感染機会を減らすのが目的です。しかし大学生はどうなのか、大学を休校にしなくても良いのでしょうか。

驚くべきことに、スペイン風邪のパンデミックでは、20歳代の若者の死亡率が14歳以下の子供よりも数倍高かったのです。もし、同様なパンデミックが発生するとハイリスクとなる対象は、小学生ではなく大学生であり30歳代半ばまでの若者です。国の将来を担う多くの若者が真っ先に犠牲とならないようにし、病院が存続しつづける初動体制を考えなければなりません。学校が休校となり社会機能が麻痺した状況を想定して、職員の勤務状況がどう変動するかなどの予測も必要です。新型インフルエンザ対策小委員会および感染対策委員会では、このような議論を続けながら最低限必要な準備をしています。皆様のご理解とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

感染対策室室長 中川 俊正

医療安全推進部関係

■第22回安全管理の体制確保に関する特別講演会

テーマ：『医療訴訟ガイドンス』 ～ 医療従事者と訴訟 ～

講師：大阪地方裁判所医事部 裁判官

開催日：平成20年12月5日（金）・9日（火）

両日とも午後5時～（但し、9日はDVD上映）

安全管理の体制確保に関する特別講演会が12月5日（金）午後5時から、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、大阪地方裁判所医事部 裁判官10名をお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者572名（内リスクマネージャー47名）の出席のもと開催されました。

花房病院長の開会挨拶に続き、米田医療安全推進部長の司会のもと、裁判官より医療訴訟について、ご紹介いただきました。

講演後の質疑応答では、参加者の質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、研修終了後のアンケートでも、医療訴訟の概要・裁判の流れ等、基本的なところが理解できた等の感想が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、米田医療安全推進部長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもと終了しました。



※ 本院では、医療に係る安全管理のための職員研修は、全ての職員が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。今年度4回目の開催となり、毎回、多数の職員に参加していただき、安全に係る研修の参加意識も高まってきたように感じます。

※ 業務や時間の都合で研修会に出席できない方については、DVDでの研修で代替することを改善事例としています。DVD貸し出しの利用や医療安全対策室隣（2号館5階）の研修室で随時DVDが鑑賞できるようになっています。部署毎あるいは個人でも利用できますのでお問い合わせください。（内線2990）

平成20年度 市民公開講座

■第5回

平成20年11月15日（土）14時～ 臨床第1講堂

『皮膚のかゆみの診断と治療』

講師：皮膚科 准教授 森脇 真一



『皮膚外用剤（軟膏とクリーム）の違いについて』

講師：附属病院薬剤部 益森 啓子



☼『看護相談会』を開催致しました。

■第6回

平成20年12月20日（土）14時～ 臨床第1講堂

『在宅における栄養管理』

—低栄養による肺炎、床ずれ予防のために—

講師：NST委員会

脳神経外科学 助教 山田 佳孝



『栄養管理に使用されるお薬について』

講師：附属病院薬剤部 西村 果純



☼『看護相談会』を開催致しました。

■第7回

平成21年1月17日（土）14時～ 臨床第1講堂

『ひざの痛みの話』

講師：整形外科 准教授 中島 幹雄



『痛み止めを長く上手に飲んで頂くために』

講師：附属病院薬剤部 梅本 裕子



☼『看護相談会』を開催致しました。

市民公開講座

平成21年度 市民公開講座開催予定

回	開催日	演 題	講師	演 題	薬剤師
第1回	4月18日(土)	くり返し確かめないと 気がすまないあなたへ -強迫性障害について-	精神神経科 助教 西田 勇彦	強迫性障害のお薬と の上手なつきあい方	濱田 武
第2回	5月16日(土)	身体にやさしい大腸 がん治療を求めて	一般・消化器外科 講師(准) 田中慶太郎	がんの痛みは怖くない	小林 豊英
第3回	6月20日(土)	何でも食べたい!どだい 無理な(話)歯無し!? -インプラント治療について-	歯科口腔外科 教授 島原 政司	骨粗しょう症のお薬 と顎骨壊死の予防	鈴木 典子
第4回	9月5日(土) (第1土曜日)	寝たきりにならない ためのリハビリテー ションのすすめ	リハビリテーション科 教授 佐浦 隆一	「転倒防止」 理学療法士 高山竜二	
第5回	11月7日(土) (第1土曜日)	新しい心肺蘇生を学 びましょう ※実技有り	救急医療部 教授 森田 大 救急医療部医員	緊急時に使用する お薬について	山田 智之
第6回	12月19日(土)	リンパ浮腫って何?	形成外科 講師 中井 國博	リンパ浮腫治療に関 連するお薬について	曾根 登子
第7回	平成22年 1月16日(土)	「治験」ってなあに?~ 「治験に参加しません か?」と言われたら~	臨床治験センター センター長 林 哲也 センター一同	治験センター担当	

※各回において、お薬相談、看護相談を実施致します。

■市内5大学リレー市民講座

高槻市の市制施行65周年・中核市移行5周年記念事業として、『市内5大学リレー市民講座』が開催されました。これは平成20年度の高槻市大学交流センター事業の一環でもあります。

日時：平成20年11月21日(金) 18:00~20:30

場所：高槻市立総合市民交流センター 8階イベントホール

大 学	講師・講演テーマ
大阪医科大学	衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 教授 河野公一氏 『地域とともに81年-大阪医科大学の使命-』
大阪薬科大学	薬学部 講師 芝野真喜雄氏 『身近な薬用植物を活用した健康づくり』
関西大学	副学長 文学部 教授 芝井敬司氏 『関西大学と高槻市のまちづくり-社会安全・産業振興・教育連携・政策創造-』
京都大学	農学研究科 教授 北島 宣氏 『京大農場80年の縁(えにし)-高槻のまちづくりとともに-』
平安女学院大学	名誉教授 梶浦恒男氏 『住宅を長持ちさせて使う』



■主要会議とその主な議題(平成20年11月～平成21年1月)

[理事会]

(平成21年1月14日)

(平成20年11月11日)

—審議事項—

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学監事監査規程の制定について

1. 各大講座からの報告

2. 大阪医科大学専門教授規程等の一部改正について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 仮決算報告
3. 経常費補助金におけるベット調整及び入学定員増による影響について
4. その他

[教授会]

(平成20年11月5日)

—審議事項—

(平成20年12月9日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 本部北キャンパス活用計画について

1. 人事に関する件

2. 皮膚科学教室担当教授選考委員会委員長の選出及び今後の日程について

3. キャリア形成支援センター専門教授選考委員会委員長の選出及び今後の日程について

4. 総合診療科専門教授選考委員会の今後の日程について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立大学連盟総会・日本私立医科大学協会理事会報告
3. 平成20年度冬期賞与について
4. その他

5. 学長予定者選考規程等の改正について

6. 大阪医科大学の公的研究費管理・運営体制の改正について

7. 学校法人大阪医科大学教員採用手続きに関する内規の改正について

8. 教員・教室評価システムの改正について

(平成21年1月13日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 本部北及び本部西キャンパス活用計画について

—報告事項—

1. 理事会報告

2. 学長報告

3. 広報・入試プロジェクト委員長報告

4. 教育センター長報告

5. 中山国際医学医療交流センター長報告

6. その他

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会報告
3. 財務関係報告について
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. 看護専門学校関係報告
7. 保健看護学部研究室棟建築について
8. その他

(平成20年11月19日)

—審議事項—

1. 人事に関する件

2. 第6学年卒業の合否判定について

3. 平成20年度本学学生褒賞(学長賞・教育機構長賞)の選定について

4. 大阪医科大学学則の一部改正について

5. 教員の割愛について

6. 論文審査可(合)否承認への専門教授の参加について

7. キャリア形成支援センター専門教授選考について

[大講座主任教授会]

(平成20年11月12日)

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 病院長予定者の選考に関する規程の改正案について

—報告事項—

1. 学長報告

主要会議報告

2. 教育機構長報告
3. 広報・入試プロジェクト委員長報告
4. 教育センター長報告
5. 倫理委員長報告
6. 中山国際医学医療交流センター長報告

(平成20年12月3日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 化学療法センター専門教授選考について
3. キャリア形成支援センター専門教授選考について
4. 清金教授の名誉教授資格について
5. 大阪医科大学名誉教授等称号授与規程の一部改正について
6. 大阪医科大学学則の一部改正について
7. 入学時特待生制度の制定に伴う規程改正等について
8. 厚生労働科学研究における利益相反(COI)の管理に関する委員会設置について
9. 学長予定者選考規程改正委員会報告

—報告事項—

1. 学長報告
2. 研究機構長報告
3. 教育センター長報告
4. 市民公開講座運営委員長報告
5. その他

(平成20年12月17日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 感覚器機能形態医学講座皮膚科学教室担当教授の選考について
3. 総合医学講座放射線医学教室治療担当専門教授の選考について
4. 大阪医科大学特定医療従事条件付奨学金規程(案)について
5. 大阪医科大学専門教授規程の一部改正について
6. 大阪医科大学学長予定者選考規程等の一部改正について
7. 学長予定者選挙日程について
8. 第4回教員評価試行結果及び公聴会を終えて

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告

3. その他

(平成21年1月7日)

—審議事項—

1. キャリア形成支援センター専門教授の選考について
2. 総合診療科専門教授の選考について
3. 職員の割愛について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について
5. 大阪医科大学入試実務委員会規程の一部改正について
6. 平成21年度一般入学試験(前期及び後期)に係る入試総監督及び総監督補佐の委嘱について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告

(平成21年1月21日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 化学療法センター専門教授の選考について
3. 大阪医科大学学則の一部改正について
4. 大阪医科大学研究生に関する内規の一部改正について
5. 大阪医科大学特定医療従事条件付奨学金規程(案)について
6. 大学の安全対策について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 研究機構長報告

[大学院医学研究科委員会]

(平成20年11月19日)

—審議事項—

1. 平成20年度第Ⅱ回学位論文審査結果に基づく可(合)否決定について
2. 平成20年度大学院FDワークショップについて
3. 平成21年度大学院教育要項(シラバス)について
4. 留学生対象奨学金への申請について

—報告事項—

1. 学位論文審査における傍聴者への論文配布について

主要会議報告 行事日程

2. 研究生出願における申請様式の統一について
3. 平成21年度大学院医学研究科入学式について
4. 各種公募等報告
5. がんプロフェッショナル養成プランフォーラムについて
6. 彩都・医薬基盤研究所連携フォーラムについて

(平成20年12月3日)

—審議事項—

1. 財団法人日中医学協会共同研究等助成金への応募承認について

(平成20年12月17日)

—報告事項—

1. 平成21年度共同利用実験施設セミナーについて
2. 平成20年度第3回学位論文申請受付について

3. 平成21年度大学院入学試験出願受付について
4. 各種公募報告

(平成21年1月7日)

—報告事項—

1. 平成20年度大学院FDワークショップについて
2. 各種公募報告

(平成21年1月21日)

—審議事項—

1. 平成20年度第Ⅲ回学位論文申請の受理可否について

—報告事項—

1. 平成21年度大学院入学試験志願者数について
2. 平成20年度統合講義レポートの提出について
3. 平成21年度統合講義担当者斡旋依頼について

■主な行事日程(平成21年3月～平成21年5月)

<p>3月4日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会</p> <p>6日(金) 学部卒業式</p> <p>7日(土) 第2回 歴史資料館市民講座</p> <p>10日(火) 理事会 医学部一般入学試験(後期)1次試験 看護専門学校卒業式</p> <p>11日(水) 医学部センター試験利用入学試験 2次試験</p> <p>12日(木) 臨時教授会 医学部センター試験利用入学試験 2次試験合格発表</p> <p>16日(月) 教授会・大学院医学研究科委員会 医学部一般入学試験(後期)1次試験 合格発表</p> <p>20日(金) 医学部一般入学試験(後期)2次試験</p> <p>21日(土) 臨時教授会 医学部一般入学試験(後期)2次試験 合格発表</p> <p>25日(水) 病院運営会議</p> <p>26日(木) 第98回看護師国家試験合格発表</p> <p>27日(金) 第103回医師国家試験合格発表</p> <p>31日(月) 評議員会・理事会 医学部(一般・センター)入学手続 者の入学辞退締切(17:00まで)</p>	<p>4月2日(木) 教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会 学部入学者決定 大学院入学宣誓式</p> <p>3日(金) 学部入学宣誓式</p> <p>6日(月) 新入生オリエンテーション</p> <p>7日(火) 新入生学外合宿(於:ウエルサン ピア京都)(～9日まで)</p> <p>8日(水) 大講座主任教授会 看護専門学校始業式</p> <p>9日(木) 看護専門学校入学式</p> <p>14日(火) 理事会</p> <p>15日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会</p> <p>18日(土) 平成21年度第1回市民公開講座</p> <p>22日(水) 病院運営会議</p> <p>5月7日(木) ナイチンゲール生誕祭</p> <p>9日(土) 看護専門学校学校祭(白友祭)</p> <p>12日(火) 理事会</p> <p>13日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会</p> <p>16日(土) 平成21年度第2回市民公開講座</p> <p>20日(水) 大講座主任教授会</p> <p>27日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会</p> <p>30日(土) 評議員会・理事会</p>
---	--

歴史資料館関係

■高槻市中心市街地活性化フォーラム（第2回）

JR高槻駅から阪急高槻市駅を主とした市街地を中核市・高槻の玄関口にふさわしい地域とするための「高槻市中心市街地活性化フォーラム」（全3回）を開催するにあたり、その第2回を本学別館（歴史資料館）で開催したい旨の依頼が高槻市からあり、下記の通り開催されました。

日 時：平成21年1月20日（火）15：00～17：30
場 所：別館3階 講義室
講 師：高松丸亀町商店街振興組合 理事長 古川康造 氏
主 催：高槻市商工観光課
参加者：100名



■高槻市コミュニティ市民会議関係者による見学

高槻市内32の地区コミュニティから代表4人が選出され128人の委員により運営されている高槻市コミュニティ市民会議において市内の公共施設等の見学会が計画され、その一環として本学別館（歴史資料館）へコミュニティ市民会議関係者が見学のため来館されました。

日 時：平成21年1月23日（金）9：30～10：10
参加者：30名（高槻市職員担当者含む）



保健管理室からのお知らせ

■ 第1回メンタルヘルス研修会を開催しました



講師：稲田泰之 先生

『管理職のためのメンタルヘルス研修』

講師：稲田泰之 先生

(学41期／悠仁会 稲田クリニック)

日時：平成20年11月26日（水）17：00～18：30

場所：臨床第1 講堂

日頃、本学職員のメンタルヘルスにご尽力頂いている稲田泰之先生を講師にお迎えし、管理職を対象にメンタルヘルス研修会を開催しました。

昨今、職場のメンタルヘルス問題は年々増加していると言われており、本学も例外ではなく、心身の健康を損ない休職となる職員、あるいは心身の不調を抱える職員は少なくありません。厚生労働省は「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」で、4つのケア「職員自身のセルフケア」「管理職によるラインケア」「事業場内産業保健スタッフによるケア」「事業場外資源によるケア」を連携して組織的に職場のメンタルヘルス対策を推進していくことを提唱しており、管理職は重要な役割を担っています。

今回の研修では職場でのメンタル不全者についての基本的な知識や休職、復職時の対応など分かりやすくご講義頂きました。また参加者は管理職以外も含めて165名と予想以上の参加者数となり、職員のメンタルヘルスへの関心の高さを感じました。



挨拶：保健管理室長 上田晃一 教授



司会：産業医 杉野正一 講師

■ 定期職員健康診断を終えて

平成20年度の定期健康診断は、10月20日～10月31日の10日間で実施しました。現時点での受検率は99.9%となっており、未受検者は1名（教員）となっています。年々、自発的に受検して下さる方が増加していますが、保健管理室から何度も連絡しなければ受けて下さらない方も少なくありません。

また今年度からは、特定健診・特定保健指導が開始され、本学では保健指導の対象者が622名（被扶養者を除く）となっておりますが、その内、積極的支援（ハイリスク者）の該当者は約40名となっております。該当者は今後、保健指導により生活習慣の改善が必要となってきますが、該当者以外の方も今回の健診をきっかけに自分のライフスタイルを見つめてみてはいかがでしょうか。

保健管理室からのお知らせ

■ 有機溶剤・特定化学物質健康診断、長時間労働者健康診断について

秋期の有機溶剤・特定化学物質健康診断の対象者は約90人であり、全ての方が受験し、有機溶剤・特定化学物質取扱いによる身体への影響で、健康を害している方は現在のところおられない状況です。

また長時間労働者健康診断の対象者は39人で、医師の面談が必要と判断された方はおられませんでした。

■ 大学院生の特定業務従事者健診について

昨年より、大学院生の定期健康診断を学校保健法に従って4～5月に変更すると共に、秋に特定業務従事者健診を実施しています。今回の健診では70名が対象となり、全ての対象者が受検し、有所見率は42.9%となりました。

■ インフルエンザワクチン接種について

平成20年度インフルエンザワクチン接種は、11月10日(月)～14日(金)に実施し、約2,380人の教職員・学生(非常勤職員を含む)が接種しました。年々、接種者数は増えており、教職員や学生の感染症予防に対する認識が高まっています。またクリニカルクラークシップ中の医学部5年生についてはワクチン接種状況を調査するとともに、接種勧奨をしています。しかし特に低学年を中心にインフルエンザに罹患しても登校し、マスク着用もせず友人と接触している学生も少なくなく、医学部学生への感染症教育は大きな課題となっています。

■ 2009年度予定

2009年度の各種健康診断・感染症事業予定は下記のとおりとなります。詳細は対象者の方々に随時ご案内しますので、必ず受検して下さい。

また健康診断、感染症事業の実施においては、中央検査部、中央放射線部、病院感染対策室など関係部署の多くの方々のご協力で実施しています。厚く御礼申し上げます。

健康診断名	対象者	実施時期	関連法規
学生定期健康診断	医学部学生、看護学生、大学院生	4月～5月	学校保健法第2章第6条
職員定期健康診断	教職員、レジデント、研修医、非常勤職員	10月	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第44条、学校保健法第2章第8条
特定健康診断・特定保健指導	40歳以上の教職員	10月	高齢者の医療の確保に関する法律第20、24条
特定業務従事者健康診断	深夜業務に従事している者	5月、10月(6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第45条
雇入時健康診断	雇入者	随時	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第43条
電離放射線健康診断	電離放射線業務に従事している者	4月、10月(6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、電離放射線障害防止規則第56条
有機溶剤・特定化学物質健康診断	有機溶剤、特定化学物質取扱者	5月、10月(6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、有機溶剤中毒予防規則第9条、特定化学物質等障害予防規則第39条
長時間労働者健康診断及び面接指導	長時間労働者(月45時間以上の時間外・休日勤務)	5月、10月	労働安全衛生法第66条
血液浄化センター・臨床工学室定期検診	血液浄化センター、臨床工学室職員	4月、9月	
QFT検査	雇入者、医学部1年生、看護1年生、大学院1年生	4月、雇入時	
感染症抗体検査	雇入者、看護1年生、大学院1年生	4月、雇入時	
B、C型肝炎抗原抗体検査 B型肝炎ワクチン接種		4月、6月、7月、12月	
インフルエンザワクチン接種		11月	

◆大阪医科大学俳句会（十一・十二・一月）

栗御飯炊けましたよと姉の聲

山崎隆司

電器屋に電話するのも冬用意

同

笠取は京滋の境霧深く

今井雄介

さうだつたと年末に見る総集編

同

南無阿弥陀仏冬田の中の墓一基

中川一成

福笹の乗り込んでくるラツシユかな

同

掌に重き背革天金秋灯下

吉田孝江

浪速橋渡れば在所蕪村の初春

同

長男の背丈頼りの注連飾

飯塚久子

曲水の黄落とそふ酒の神

同

従順な夜寒の椅子の背のカーブ

美濃 眞

去る人のまだ見えてみて枯木道

同

まさをなる空にまぢかき水仙郷

宮脇芳美

ハイキング仲間と拝む初日の出

同

—— 投句のお誘い ——

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の
出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7

大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

表紙絵：『竹』（イネ科 モウソウチク）

樹木を目の前にして、「この木何の木」と問われて判らなくても、竹をみせられて判らないという人はまずはない。ことほど左様に身近な植物である。竹は他の樹木と共生して生きる中国から帰化した植物である。厳しい自然環境で、他の植物より背が低ければ光を受けることができず生き残れない。そのため竹は高く上に延びる。背丈が高ければ、風雪による上から横からの力に耐えられない。結果、竹は受けからの力を少なくするために中心部分を空っぽにして、出来るだけ少ない木質部で体を支えられるパイプ状になっている。しかし、風雪の場合、上からの力より、横から係る力の方が強力であり、単なるパイプ状だけでは、ねじれたり、割れたりして直立できない。そのために節がある。節はパイプを一定間隔に補強する役目をしている。

風雪にどんなに叩かれて弓のように湾曲しても折れず立ち上がる竹の強さ、それを作り上げている節の存在、竹にまつわる格言のなかに、人間社会を擬えて、苦節十年がある。

竹の強さは、目に見えぬ地下茎の存在も無視することはできない。「目に見えなくても、下で上を支えるものの存在とその力を決して忘れてはならない」そんな格言にも使えそうである。参考文献：寺崎日本植物図譜 平凡社 「竹づくし文化考」 上田弘一郎著 京都新聞社

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

● イルミネーション点灯式 ●

平成20年12月5日(金)午後4時30分より、LDセンターにて第7回目イルミネーション点灯式を行いました。今年は、約90名の子どもたちと保護者の方約60名が参加しました。また、大学・病院の各部署からも20名ほどの方々にお越しいただきました。

昨年に引き続き今年も、医学部の「小児ボランティア部」の学生さんにお手伝いいただき、楽しい歌やダンスの出し物をしていただきました。また、バルーンアートやビンゴ大会のときには、子どもたちへのサポートもお手伝いいただきました。

毎年恒例のジャグリングに代わって、今年はバルーンアートが行われ、細長いバルーンを使った帽子やクリスマスリースなどを、親子そろって一生懸命作りました。またビンゴ大会では、サンタから数字が発表されるたびに、子どもたちが一喜一憂しながら自分のカードを見ていました。センター内のホールでは“気まぐれコンサート”が行われ、フルートやピアノによるクリスマスソングやアニメソングに、子どもたちが楽しそうに聞き入っていました。

この日は朝から大雨で、外でのイベントはあきらめなければいけないのではと思っていましたが、幸いにも開会1時間ほど前に雨が上がりました。途中何度か小雨が降りましたが、開会式・イルミネーション点灯・バルーンアート・ビンゴ大会といった外でのイベント時に降ることはなく、木々の雫にイルミネーションの光が輝いていました。

短い時間でしたが、大勢の方々と楽しいひと時を過ごすことができました。



• 表紙絵の説明はP34をご覧ください。

個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第79号
発行年月 平成21年2月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総合企画部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/>

● 「大阪医科大学限定キューピー」ができました！ ●

広報・入試センター長 大槻 勝紀

2008年11月、大阪医科大学限定キューピーが誕生いたしました。

このキューピーは、PRAC広報・入試センターにおいて、受験生に本学に対して親しみを感じてもらえる大学グッズを検討する過程で生まれたものです。他大学においても、様々なコスチュームキューピーが作られ販売されていますが、医科大学発のキューピーは本学が最初ではないでしょうか。デザインは、本学学生をモチーフとし、男女それぞれどちらも白衣姿に聴診器スタイルで、背中には大学のロゴ(OMC)を入れました。

今後、この本学限定キューピーは、受験者募集イベント等に活用していく予定ですが、皆様にも広くご活用いただけるよう、広報・入試センター(総合研究棟1階)、および(株)西泉売店OMCグッズコーナー(附属病院1階及び新講義実習棟2階)において販売を開始いたしました。〔価格472円(税込み)〕大学グッズのひとつとして、皆様に親しんで頂ければと思います。

また、PRAC広報・入試センターではキューピーの他、学会、説明会、同窓会などの各イベントにてご使用いただける大学グッズを製作、販売しております。詳細は、広報・入試センター(総合研究棟1階) / Phone: 072-684-7117(直) または内線2975までお問い合わせください。

<大阪医科大学限定キューピー> 1個 472円(税込み)



<大阪医科大学グッズ紹介>



OMCロゴ入り
携帯クリーナー
1個 ¥399(税込み)

OMCロゴ入り
Dr.GRIP
4色+シャープペン
1本 ¥1,050(税込み)

左) OMCロゴ入り
クリアファイル
本体:透明
ロゴ:青
1枚 ¥52(税込み)

右) OMCロゴ入り
手提げ紙袋(白)
1枚 ¥157(税込み)

※書類A4サイズ角2封筒横が入ります。



大阪医科大学グッズは、広報・入試センター/総合研究棟1階、および(株)西泉/附属病院1階売店、新講義実習棟2階売店、OMCグッズコーナーにて販売しております。学会、同窓会記念品等にご活用下さい。